

## Book & Design 『<美しい本>の文化誌』の展示会 展示候補リスト

### 1. 近代の名品と話題作

藤島武二装幀 与謝野晶子『みだれ髪』復刻版（初版=東京新詩社、1901年）  
北原白秋自装『思ひ出』復刻版（初版=東雲堂書店、1911年）  
夏目漱石自装『こころ』初版復刻版（岩波書店、2001年、初版=1914年）  
装幀者不詳 森鷗外『雁』復刻版（初版=初山書店、1915年）  
恩地孝四郎装幀（表紙画=田中恭吉）萩原朔太郎『月に吠える』復刻版（初版=感情詩社・白日社、1917年）  
萩原朔太郎自装『青猫』復刻版（初版=新潮社、1923年）  
齋藤昌三自装『書癡の散歩』（書物展望社、1932年）…表紙は番傘の古紙使用  
谷崎潤一郎自装『春琴抄』復刻版（初版=創元社、1933年）…蒔絵風の表紙は漆塗り  
佐野繁次郎装幀 横光利一『時計』（創元社、1934年）…金属版を表紙にあしらう  
青山二郎装幀 小林秀雄『私小説論』（作品社、1935年）

### 2. 画家・版画家と世界的創造者の仕事

藤田嗣治装幀・挿絵 岸田國士『落葉日記』（大地書房、1949年）  
恩地孝四郎自装『本の美術』（誠文堂新光社、1952年）  
勝呂忠装幀 田村隆一『四千の日と夜』（東京創元社、1956年）  
芹沢銈介装幀 武田泰淳『十三妹』（朝日新聞社、1966年）  
高松次郎装幀 ル・クレジオ『物質的恍惚』（新潮社、1970年）  
赤瀬川原平装幀 吉増剛造『黄金詩篇』（中央公論社、1970年）  
横尾忠則装幀・画 柴田錬三郎『絵草紙うろつき夜太』（集英社、1975年）  
柄澤齊装幀 杉本秀太郎『まだら文』（新潮社、1999年）…本冊の見返しは、本文の束とそれをくるむ表紙が分離した特異な製本「巻き見返し本」  
\*  
武満徹装幀『中井英夫作品集』（三一書房、1969年）  
川久保玲装幀 堀江瑠璃子『時代を拓いたファッションデザイナー』（未来社、1995年）

### 3. 詩人装幀と著者自装、編集者による装幀の系譜

室生犀星自装（題字=畦地梅太郎、装画=前田青邨）『我が愛する詩人の傳記』（中央公論社、1958年）  
吉岡実装幀『西脇順三郎全集II』（筑摩書房、1971年）  
平出隆+望月玲子（新潮社装幀室）装幀 平出隆『伊良子清白』（新潮社、2003年）  
最果タヒ自装（装画=田辺ひとみ）『グッドモーニング』（思潮社、2007年）  
カニエ・ナハ自装（装画=中島あかね）『用意された食卓』（青土社、2016年）  
\*  
村上春樹自装『ノルウェイの森』上・下巻（講談社、1987年）  
\*  
雲野良平装幀 三島由紀夫編『聖セバスティアンの殉教』（美術出版社、1966年）  
萬玉邦夫装幀（装画=ギュンター・グラス）『開高健全ノンフィクションI『河は眠らない』（文藝春秋、1977年）  
田村義也自装『のの字ものがたり』（朝日新聞社、1996年）  
藤田三男自装（カバー原案=原弘）『歌舞伎座界限』（河出書房新社、2013年）

### 4. 現代ブックデザインの優品とタイポグラフィへのまなざしと

杉浦康平ブックデザイン 塚本邦雄『百句燦爛』（講談社、1974年）  
…本文ページの見出しは24ポイント大日本印刷・秀英体明朝活字、本文は10ポイント精興社明朝活字  
多田進装幀（装画=多田順）『深沢七郎集』第一巻（筑摩書房、1977年）  
平野甲賀装幀 木下順二『本郷』（講談社、1983年）  
菊地信義装幀 澁澤龍彦『高丘親王航海記』（文藝春秋、1987年）  
中島かほる装幀 澁澤龍彦『フロラ逍遥』（平凡社、1987年）  
羽良多平吉造本設計 稲垣足穂『一千一秒物語』（透土社、1990年）  
鈴木成一ブックデザイン マーク・Z・ダニエレブスキー『紙葉の家』（ソニー・マガジズ、2002年）  
白井敬尚ブックデザイン 山口藍『ほがらほがら』（羽鳥書店、2010年）…和本の時代の伝統的本文組の援用  
松田行正造本 港千尋『ヒョウタン美術館』（牛若丸、2014年）…本文の四周は蠟を使った半透明印刷  
夏目漱石+祖父江慎装幀『漱石 心』（祖父江慎ブックデザイン）新装版（岩波書店、2014年）…時代を隔てた基本的枠組みの唱和